

# 令和5年度 滋賀県立リハビリテーションセンター研修一覧



詳細はこちら

専門研修(リハビリテーションに関わるすべての職種を対象とした研修)

研修名	主旨	研修テーマおよび講師	対象者	開催日時	申込締め切り	開催場所	定員
① 医師コース ※1、※2	地域包括ケアシステムの構築が進む中で、すべての方が安心安全に暮らすためには、かかりつけ医(在宅診療)、病院、診療所との連携、在宅医療チームと入院医療チームとの連携が必要となります。また、高度急性期・急性期医療から在宅医療・介護までの切れ目のない医療や介護サービスの提供に向け、リハビリテーションの観点を持つことは必要不可欠です。今回の研修では急性期から在宅生活を見据え、リハビリテーション医療として知っておくべき観点や、多職種協働による評価・目標設定の重要性等の理解と促進を図ることを目的とします。	「急性期から在宅まで暮らしを支えるための医療・介護連携とリハビリテーション」 ＜講師＞ 公立穴水総合病院 リハビリテーション科 医師 影近 謙治 氏	医師 〔医師以外の方も参加可能です。〕	令和6年 1月21日(日) 13:30～15:00 【受付:13:00～】	令和6年1月12日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	滋賀県立リハビリテーションセンター 研修室または Web会議システム(ZOOM)を利用したハイブリッド研修	20名
運動器・脊髄損傷コース ※2	医学的リハビリテーションをとりまく状況は年々変化しており、以前と比べて早期に地域での生活に移行することが多くなってきています。脊髄損傷者においては一般的にリハビリテーションに要する期間が長いこと、医学的リハビリテーションの早期介入に加え、退院後の在宅・地域生活における支援がより重要になっています。そこで、脊髄損傷者の支援に携わる方が医療の役割や地域資源を把握し、対象者の自立した生活に繋がる支援を提供できることを目的とします。	「脊髄損傷者の在宅・社会生活に向けて」 ＜講師＞ 「脊髄損傷のリハビリテーション医療～社会復帰を支える上で知っておきたいこと～」 吉備高原医療リハビリテーションセンター 院長 古澤 一成 氏 「脊髄損傷者の在宅生活のリアル～脊髄特化型支援の在宅生活支援事業所の現場から見たもの～」 特定非営利活動法人 リハビリテーションビレッジ 代表 川村 享平 氏	脊髄損傷者の支援に携わる全ての職種	令和5年 8月19日(土) 13:30～16:00 【受付:13:00～】	令和5年8月4日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム(ZOOM)	50名
難病コース ※1、※2	脊髄小脳変性症(SCD)・多系統萎縮症(MSA)は症状が進行することで、転倒等のリスクが高まり、日常生活に影響を及ぼすことも少なくありません。これらの疾患に対する早期からのリハビリテーションや自主的な運動、環境調整によって日常生活での活動量、社会参加を維持することが重要です。しかし、実際には活動量、社会参加の減少によって身体機能が低下し、生活の質の維持が困難になっているケースも見られます。今回の研修では、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の患者に携わる支援者が疾患や環境調整、そして早期からのリハビリテーションへの理解を深め、各自がどのような役割を果たすべきか考え、患者の生活の質を維持するリハビリテーション支援の実践に結び付けることを目的とします。	「脊髄小脳変性症・多系統萎縮症のリハビリテーション」 ＜講師＞ 公益財団法人 脳血管研究所 三原記念病院 神経難病リハビリテーション課 理学療法士 菊地 豊 氏	神経難病患者の支援に携わっている方々 ※医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、介護職、ケアマネジャー、計画相談員等	令和5年 7月29日(土) 13:30～15:30 【受付:13:00～】	令和5年7月21日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム(ZOOM)	50名
慢性疼痛コース ※1、※2	慢性疼痛は痛みが長期間持続することにより病態が複雑化し、心理的社会的要因も痛みの構成要素になる事から治療に当たっては様々な治療を組み合わせた集学的治療を行い、痛みの程度の改善にとらわれず、日常生活の改善を目標にすることが重要です。今回は治療に関わる支援者だけでなく、生活を支える支援者と共に多職種で重層的な支援ができるよう、慢性疼痛の基礎的内容から具体的な支援内容まで学ぶ機会とします。	＜講師＞ 「慢性疼痛の治療と支援」 愛知医科大学 痛み医療開発講座 特任教授 福井 聖 氏 「慢性疼痛患者への支援～理学療法士から伝えられること～」 滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部 理学療法士 久郷 真人 氏	医療関係者、高齢者・障害者支援、市町の予防事業等に関わる方など 慢性疼痛を抱える方の支援に関わるならなどでもご参加ください。	令和5年 11月11日(土) 13:30～15:30 【受付:13:00～】	令和5年11月2日(木)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム(ZOOM)	30名
コミュニケーション支援コース ※2	神経難病や重度障害を抱えていてもパソコンやタブレットなどのIT機器、様々な入カスイッチを使用することで、コミュニケーションを取ることが可能です。また、それらを用いることにより、仕事の継続や余暇時間を充実させることができます。最近では子どもの反応を確認したり、発達を促すことに活用されている例もあります。研修ではIT機器や入カスイッチ等を用いたコミュニケーション支援について学び、各支援者が実践と結び付けることを目的とします。(当研修は、南部健康福祉事務所と共催です。)	「神経難病患者・重度障害をもった方等へのコミュニケーション支援」 ＜講師＞ 「コミュニケーション支援とは？」 障害者ICTサポートセンター 松下 佑太 氏 事例紹介①「神経難病患者さんへの支援」 滋賀県済生会訪問看護ステーション 作業療法士 今井 真梨子 氏 事例紹介②「障害を抱える子どもさんへの支援」 オリブ訪問看護ステーション 理学療法士 高木 篤 氏 体験会 視線入力スイッチ、ピクスイチ等を使用して、実際にiPadやパソコンを操作してみる体験をしていただけます	難病患者の方、障害児の方を支援されている医療・介護・障害・学校・就労支援機関等の方 ※職種は問いません	令和5年 9月9日(土) 13:30～15:30 【受付:13:15～】	令和5年9月1日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	草津市市民交流プラザ(フェリエ南草津) 5F 大会議室	30名
高次脳機能障害コース <STEP 1> ※2	高次脳機能障害については、症状が外見からわかりにくく、また本人に自覚がないことも多いため「見えない障害」と言われることもあります。そのため支援者や周囲の方にもこの障害に対する理解が必要です。高次脳機能障害の支援において、適切な知識をもって関わることで、高次脳機能障害の方の社会適応を高めるとい報告もあり、今回の研修では、「高次脳機能障害ってよくわからない。」「高次脳機能障害について理解したい。」といった支援者に対して、基礎理解を高める事を目的とします。(当研修の「高次脳機能障害の基礎理解」は2022年度に当センターが実施した高次脳機能障害コースSTEP1とほぼ同一の内容です。)	「高次脳機能障害の基礎理解」 ＜講師＞ 「高次脳機能障害の基礎理解」 滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一 「社会的行動障害の基礎理解とその対応」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員 小西川 梨紗 氏		令和5年 8月27日(日) 13:30～16:30 【受付:13:00～】	令和5年8月18日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム(ZOOM)	30名
高次脳機能障害コース <STEP 2B> ※2	高次脳機能障害については、症状が外見からわかりにくく、また本人に自覚がないことも多いため「見えない障害」と言われることもあります。そのため支援者や周囲の方にもこの障害に対する理解が必要です。注意・記憶・遂行機能・社会的行動障害は、行政的な定義において高次脳機能障害として挙げられます。このような症状を持つ方々に対し、生活場面で支援に関わる方を対象に、動画等を用いながら、それらの障害特性に対する理解を深めると共に、実際の関わり方が具体化できるように動画やアセスメントツールを用いながら理解を深めます。(当研修は、2021年度に実施した高次脳機能障害コースSTEP2Bと同一の内容です。)	「生活における高次脳機能障害の捉え方や対応法B」 ＜講師＞ 滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一 ほか		令和5年 10月22日(日) 9:30～12:30 【受付:9:00～】			20名
高次脳機能障害コース <STEP 3> ※2	高次脳機能障害のある方の地域社会生活を支える際に様々な方や機関が関わることがあります。その際、支援機関の役割を知っている事は支援される方のこれからの生活を左右する可能性があります。そこで、地域で中心となって支援している様々な方々に支援機関の役割や実際を講演いただき、今後の支援に活かしていくことを目的とします。	「生活を支える社会資源～知る事が大きな差を生む～」 ＜講師＞ 「滋賀県における高次脳機能障害の現状と滋賀県高次脳機能障害支援センターの支援」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員 田邊 陽子 氏 「高島市民病院での取り組み」 高島市民病院 リハビリテーションセンター 言語聴覚士 家守 秀知 氏 「滋賀県立むれやま荘の機能と役割～高次脳機能障害者への支援～」 滋賀県立むれやま荘 所長 柴田 有加里 氏 「滋賀障害者職業センターにおける高次脳機能障害者への支援について」 滋賀障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 山口 久尚 氏 「高次脳機能障害者の会」 高次脳機能障害者の会が 代表 岡本 律子 氏 「基幹相談支援センターにおける高次脳機能障害者の支援状況について」 高島市障がい者相談支援センター コンパス 所長 杉島 隆 氏	医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、介護福祉士、介護士、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー、相談支援事業所職員、就労支援機関職員 等	令和5年 10月22日(日) 13:30～16:30 【受付:13:00～】	令和5年10月13日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	安曇川公民館 ふじのきホール	30名
高次脳機能障害コース <医師・セラピスト研修> ※1、※2	高次脳機能障害は受傷、発症時には気づかず、在宅や社会生活で症状として出ることが多い。また、障害特性も幅広く、症状の出方も様々なため、日常・社会生活に支障を及ぼすことも少なくない。また、障害特性によっては受け入れが難しいこともある。そこで、今回は支援者に必要な共感力をテーマに、共感の捉え方を脳画像と照らし合わせ理解を深め、支援者誰もが陥る可能性がある支援者に対しては精神医学、リハビリテーションの視点で講演いただき、事例から支援者はどう考えたらいいのか、また、高次脳機能障害者はどう考えているのかを講演と事例から学ぶ機会とします。	「高次脳機能障害者の支援における共感力」 ＜講師＞ 「共感の精神医学と支援者のメンタルヘルス」 京都大学大学院医学研究科 精神医学教室 教授 村井 俊哉 氏 「共感に関わる脳機能について」 理化学研究所 心理プロセス研究チーム チームリーダー 佐藤 弥 氏 「事例から共感における高次脳機能障害者の支援について」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員 小西川 梨紗 氏		令和6年 2月4日(日) 13:00～17:00 【受付:12:30～】	令和6年1月26日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム(ZOOM)	20名
摂食嚥下コース	研修 第13回京滋摂食嚥下を考える会大会 ※主催:京滋摂食嚥下を考える会 動画 YouTube 滋賀県立リハビリテーションセンターチャンネルにて「京滋摂食嚥下を考える会」と協力して作成した動画を掲載しています。施設・事業所等での研修会や個人のスキルUPのためにご視聴ください。	【研修】 「おいしく食べて元気にくらす」 第1部 講演1「在宅でのいろいろな栄養摂取と楽しみ方」 米原市地域包括医療福祉センター ふくしあ センター長 中村 泰之 氏 第2部 グループワーク「在宅症例・退院前症例の嚥下指導」 講演2「ポジティブ嚥下」 国立研究開発法人 国立国際医療研究センターリハビリテーション科 診療科長 藤谷 順子 氏 【動画】 嚥下の検査と評価 済生会滋賀県病院 耳鼻咽喉科 只木 信尚 氏 布施 慎也 氏	医療・保健・介護・福祉・行政などに携わる方、摂食嚥下障害の方を支援されている方、関心のある方	【研修】 令和5年 7月17日(月・祝) 13:00～16:30 【受付:12:30～】 【動画】 随時、当センターチャンネル(YouTube)にて配信中	【研修】 ※研修会の詳細内容は、受講される方にメールでお知らせします。 ※先着順とさせていただきます。 【動画】 滋賀県立リハビリテーションセンターチャンネル(YouTube)	【会場】 滋賀医療センター あおばなホール 【動画】 滋賀県立リハビリテーションセンターチャンネル(YouTube)	【研修】 80名 【動画】 なし

(お問い合わせ) 滋賀県立リハビリテーションセンター 電話: 077-582-8157 FAX: 077-582-5726 E-Mail: eg3001@pref.shiga.lg.jp HP: http://www.pref.shiga.lg.jp/rehabili/

※1:日本医師会生涯教育制度単位申請予定 ※2:日本作業療法士協会生涯教育制度基礎コースポイント申請予定

● お申し込みは、滋賀県立リハビリテーションセンターホームページ、または研修会案内冊子のURL,QRコードからお申し込みください。(参加は無料。但し資料代、材料費はご負担いただく場合がございます。)

